

石川県が今年度、少子化対策に力を注いでいる。「プレミアム・パスポート」などの新規施策を掲げ、谷本正憲知事は少子化対策を観光と並ぶ目玉と公言する。なぜ少子化対策が必要なのか。県の審議委員などを数多く務めるパステルラボ

核心・本心 —この人に聞く



パステルラボ社長

伊藤 数子氏

伴い、今の社会の仕組みではやっていけない部分が出てくるのが問題だ。例えば、フリーターの増加も弊害の一つ。子供が少ない家庭の場合、親に大事に育てられて甘えてしまい、働く意欲が希薄になっている。今のフリーター世代が親にな

を出し合う。これにより、後々トラブルも起こりにくくなる。また、休暇中の社員でもできる仕事も効果的だ。コミュニケーションを密にすることで、仕事復帰への意欲は高まる。会社が仕事復帰をしやすい環境を整えて、休む人も仕事の戻り方を自分なりに考えるべきだ」

した企業が少子化対策に参画すれば具体的な動きを促進する効果はあると思う」

企業と協力、柔軟に

少子化対策

べきだ。せっかく頭をひねって考えた政策はある程度長い目で取り組まないと、中途半端になる」

ると、経済的に苦しいから子供を産まなくなり、悪循環が生まれる」

「記者の目」少子化が進むとなぜ悪いのか。伊藤社長の指摘通り、行政は明確な説明をしているとはいえない。県の当事者も打ち出した策が少子化抑制に効果があるのか半信半疑、という心境だ

「企業が協力してもらおうという点に着目したのは面白いのではないか。」

「行政は常に一〇〇%の成功させるポイントを手を打ち出すときは、通常の取り組みとは違った評価の物差しを用意す

「少子化はなぜ問題なのか。」

「少子化そのものが問題というより、少子化に伴い、今の社会の仕組みではやっていけない部分が出てくるのが問題だ。」

「少子化はなぜ問題なのか。」

「記者の目」少子化が進むとなぜ悪いのか。伊藤社長の指摘通り、行政は明確な説明をしているとはいえない。県の当事者も打ち出した策が少子化抑制に効果があるのか半信半疑、という心境だ

「企業が協力してもらおうという点に着目したのは面白いのではないか。」

「行政は常に一〇〇%の成功させるポイントを手を打ち出すときは、通常の取り組みとは違った評価の物差しを用意す

「少子化はなぜ問題なのか。」

「少子化そのものが問題というより、少子化に伴い、今の社会の仕組みではやっていけない部分が出てくるのが問題だ。」

「少子化はなぜ問題なのか。」

「記者の目」少子化が進むとなぜ悪いのか。伊藤社長の指摘通り、行政は明確な説明をしているとはいえない。県の当事者も打ち出した策が少子化抑制に効果があるのか半信半疑、という心境だ